

# 潮騒通信「どっこい生きてます！」

## 人生ピンチこそ最大のチャンスです

潮騒ジョブトレーニングセンターの「潮騒ファイザープロジェクト&7周年フォーラム」が、お陰さまで成功裏に開催できました。ご参加頂いた支援者やダルク関係者、家族会の皆様に改めて感謝申し上げます。普通なら定年退職となる60歳でダルクにつながり、幸運にも回復できた私です。その恩返しのため、苦しむ仲間を一人でも多く助けたいと施設運営を決意しました。若い頃に土木関係の派遣事業を手掛けていた経験から、私には「ダルクに滞留している人たちも仕事を与えられたら、より回復していくのでは」との思いが強くあります。そのため7年前に志を同じくする仲間と独立した際には、真っ先に仕事プログラムに取り組みました。

世間からすると、どうやら私たち依存症者はひどく怠惰で怠慢な人間に見えるようです。▽労働意欲が低く、物事の取り組みが長続きしない▽嫌なことがあるとすぐ逃げ出してしまう▽平気で周囲に嘘をつき、自己中心的に振る舞う▽自分を棚に上げて他人を批判する▽厳しい現実や孤独に耐えられず、言い訳ばかりする▽たやすく薬物やアルコールに手を出してしまう(=スリップ)。でも、そうしたダメさ加減は、この病気の持つ本質的な側面でもあり、自分ではどうにもならないというジレンマを、他ならない依存症の当人たちが一番感じているのです。ですから一度下り坂に差し掛かると、この悪循環から自力で抜け出すのは至難の業です。

無謀にも片道切符の正義感と成り行きから独立したものの、世間知らずの私たちがスタートさせた回復施設は、すぐに依存症をより悪化させる巣窟と化しました。思い悩んだ末に、私は日本ダルクの近藤恒夫さんに助けを求めました。近藤さんは「ユタカ、俺たちには回復のプログラムがあり、仲間がいる。これを信じて毎日ミーティングを続けろ。ダルクは職業安定所とは違う。就労への取り組みはその後でいい。焦るな」と。そして「これからはダルクも出口の問題が避けられなくなる。ユタカの思いは必ず花開く。運営が軌道に乗ったら就労問題に取り組む専門ダルクに特化したらい。それにふさわしい施設名でやってみろ」。そう助言を得て、近藤さんに私の思いを体現する現在の施設名を付けてもらった経緯があります。

それまでの“カミ”が抜けると、不思議なことにアルコール専門病棟を持つ秋元病院からの入寮者が増え始めました。彼らの多くが過去に就労経験を持ち、ヤク中の仲間たちよりも常識があり、回復の度合いが進んでいました。間もなく潮騒の仲間たちもスリップの常態化が止まり、ミーティングが活性化していきました。そうなるとう入寮希望者が多くなり、ついにはダルクで最も入寮者の多い施設になりました。それを支えるように、今度は地元で新たな出会いと支援の輪が広がりました。人生ピンチ(危機)こそ最大のチャンス(好機)です。先の公開フォーラムの謝辞では、そうした潮騒の原点について話しました。(施設長 栗原 豊)

# SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

11月号 一部100円

## Contents

- P1 ピンチこそチャンスです
- P2 7周年フォーラム特集
- P3 ファイザーPフォーラム
- P4 エイサーで盛り上がる
- P5 フォーラムの写真特集
- P6 司会の大役を終えて
- P7 初のソフトボール交流
- P8 近藤氏インタビュー7
- P9 全国受刑者からの便り
- P10 入寮者しおさい俳壇1
- P11 入寮者しおさい俳壇2
- P12 行事予定&献金献品



フォーラムで栗原施設長もエイサー挑戦? =2~6 関連記事

# 特集「潮騒ファイザープロジェクト&7周年フォーラム」

## ～「成長…仲間と共に」をテーマにファイザー報告兼ねる～

“成長…仲間と共に”をテーマに NPO 法人・潮騒ジョブトレーニングセンターの「潮騒ファイザープロジェクト&開設7周年フォーラム」が11月11日、行方市のレイクエコーを会場に開かれ、地元の支援者やダルク関係者、家族ら延べ250人が参加しました。潮騒の公開フォーラムは今年で3回目ですが、今回は「生活保護受給者から納税者へ」の高い志をスローガンに、大手製薬企業ファイザーの助成を受けて進めているアルコールや薬物、ギャンブルなど各種依存症者の自立支援と職業訓練・就労支援の活動報告（潮騒ファイザープロジェクト）を中心としたフォーラムを兼ね、通常の公開フォーラムとの2部構成で取り組みました。茨城県精神保健福祉センター、県潮来保健所、水戸保護観察所、ハローワーク常陸鹿嶋、鹿嶋市、茨城新聞社、NHK水戸放送局、常陽新聞新社、エフエムかしまの各後援を受けました。(K)



### ■『生活保護受給者から納税者へ』潮騒独自の試み■

午前で開催された「潮騒ファイザープロジェクトフォーラム」では冒頭に来賓挨拶があり、県潮来保健所長（代理）や野口篤鹿嶋市民福祉部長、地元選出の石津政雄前衆院議員（民主党）らが登壇。藤田幸久参院議員（同）も「お膝元の茨城県で、こんな素晴らしい活動があることに驚いた」と述べ、潮騒独自の就労支援の取り組みを高く評価しました。ファイザープロジェクトの農業指導を担ってくれている根崎彰鹿嶋市議会議長は、「潮騒水田」で収穫した新米の出来をアピールし、当初から支援を頂いている立原弘一鹿嶋市

議も潮騒の地道な活動を評価しました。

#### ▼初挑戦のサツマイモ収穫で手ごたえ

この後フォーラムの具体的な内容に入り、プロジェクトで中心的な役割を果たしているスタッフのヒトシさんが、パワーポイントによるスクリーン画像を使い、プロジェクトの全体報告に立ちました。「生活保護受給者から納税者へ」を合言葉にした就労プログラムの活動報告のうち、主体となった農業分野では「初めての挑戦ながらサツマイモの収穫はまずまずの成果」と手ごたえを強調。その一方で「シイタケは（栽

培開始から) 3年目でやっと収穫できたのに、福島原発事故で放射性セシウム汚染に見舞われた。行政が示した安全基準の数値はクリアしたが、より安全安心を第一に考え、今後は除染作業を進めたい」としました。潮騒では入寮者の90%が生活保護受給者という事情から国の生活保護見直しに関心を寄せ、「どのようにして労働意欲を持たせるような制度運用が必要か、現実的な内容を」と求めました。

▼「半就労・半福祉」こそ現実的

続いてダルクやマックの支援者で社会福祉援助・公的扶助・社会保障論が専門の東海大学健康科学部准教授、宮永耕氏が生活保護制度について基調講演。宮永氏はメディアによる一面的な生活保護制度バッシングにより、受給者への感情的な攻撃が増加したことに懸念を表明し、「(生活保護制度の) 受給権が報じられない」など一連の報道姿勢を批判しました。その上で「(生活保護制度は) 『働けるか働けないか』の二者択一ではない」と解説し、生活保護制度を部分的に受給しながら就労する



講演する東海大学の宮永耕准教授

「“半就労・半福祉”こそ現実的で合理的な就労支援」とのビジョンを示してくれました。潮騒が施設を挙げて取り組むファイザープロジェクトの方向性について示唆を与える講演内容で、大きな励みとなりました。今後も潮騒へのご指導をお願いできれば、と思います。

体験発表では卒寮者のハルさんが社会復帰後の貴重な就労体験を語り、会場の参加者を深く感動させました。ハルさんは「アルバイトとして(居酒屋で)雇ってもらい、社会から受け入れられているのを感じている」と述べ、テレビ取材

(TBS「報道特集」)も素顔で受けたことにも、「今までは『逃げる』ことが多かったが、潮騒でのリハビリ生活と回復プログラムによって、今では前向きに生きていける。少しずつだが、家族や周囲への埋め合わせができ始めている」と話してくれました。忙しい仕事の合間を縫ってフォーラムに参加してくれたハルさん。回復プログラムに取り組む潮騒の仲間たちに、熱いメッセージとなりました。(勝)



石津政雄前衆院議員



藤田幸久参院議員



根崎彰鹿嶋市議会議長



立原弘一鹿嶋市議



左からファイザープロジェクトの報告をするヒトシさん、野口篤鹿嶋市民福祉部長、右は潮騒 JTC で回復し、社会復帰して居酒屋で働いている卒寮者の希望の星、ハルさん

# ダルクエイサー & 潮騒バンドで盛り上がる

## ＝横浜・川崎・市原ダルクの友情応援でフォーラム最高潮に＝

### ▼反対運動で悩み抜くも潮騒を支援

昼の休憩を挟んでから、ファイザープロジェクトの心強い支援者である増古四郎さんが、潮騒JTCの栗原豊施設長との出会いやダルクに対する誤解と偏見から生じた「潮騒JTC反対運動」などについて語りました。増古さんは栗原施設長について、「長い刑務所生活の割に人間性が壊れていなかった。この人なら信じられると直感し、何とか力になってあげたいと思った」と支援のきっかけを話してくれました。不動産業の増古さんは潮騒に施設用の建物を斡旋したことで、地元との板挟みとなって家族とともに「言葉には表せないくらい悩み苦しんだ」ことを明かし、地域の反対運動に関しては「民放テレビで潮騒ジョブが取り上げられ、これが転機となった。これ以降、地元の人に少しずつ理解されるきっかけとなった」として、今では支援者が広がっている現状を話してくれました。

### ▼ジョーさん作曲の「潮騒ブルース」初披露

この後、鹿嶋ふるさと音頭を皮切りに通常の「潮騒JTC開設7周年フォーラム」に移り、祭りイベント色を強くしました。潮騒と協力関係にある横浜・川崎・市原の3ダルク合同メンバーによる「エイサー」の友情応援演舞があり、会場の参加者も壇上に上がって、大いに盛り上がりました。潮騒メンバーによる「潮騒オールスターズ・オンステージ」では、ギターテクニックでは定評のあるノビさんやジョーさんがサポートメンバーとなり、演奏に厚みを加えました。この日のステージでは支援者らが作詞し、ジョーさんが作曲した「潮騒ブルース」が初めて披露されました。

秋元病院の秋元豊理事長のアルコールや薬物に関する講話の後、入寮者の体験発表が行われました。ツカさんは、3年前から酒量が増え幻覚が出るようになるなどの症状が出たため「妻が子どもを連れて出て行った。(自分は)自殺未遂を起こした」と、つらい過去を語りました。アルコール専門病院を経て潮騒に入寮し、現在ではスタッフの仕事をしており、「回復するためには何度も失敗してもいい。そうすれば新しいスタートができると思います」と話しました。ヒコさんは57歳でアルコール依存症となりましたが、フ

アイザープロジェクトのプログラムで農業に取り組み、農業責任者として米の栽培から収穫にたずさわりました。「収穫が思ったよりいっぱいだった。来年も頑張りたい」と意欲を示しました。

### ▼近藤さんも潮騒を高く評価

「潮騒ジョブトレーニングセンター」の名付け親でもある日本ダルクの近藤恒夫さんはゲストスピーカーとして講演し、「ダルクの弱点は『仕事が無いこと』。ミーティングをするダルクはあるけど、仕事を作っていくダルクは無い」「7年間、ダルクの人たちが成しえなかったことを潮騒の人たちは成しえている。本当に名付け親として誇りに思う」と潮騒JTCの活動を高く評価してくれました。

最後に栗原豊施設長が謝辞で潮騒の運営が軌道に乗るまでの苦勞を語り、「一度として忘れたことが無いのがダルクの理念。依存症者を社会に送り出すことの難しさは痛感しているが、やらなければならない。死ぬまで現役で(依存症に)苦しんでいる人の見本になれば」と締め括り、フォーラムを閉じました。(崎)



~潮騒 JTC7 周年フォーラム写真特集~



上段左から増古さん、ツカさん、ヒコさん。  
下段左から近藤さん、秋元理事長、栗原施設名夫妻。その上は謝辞に立つ栗原施設



# 終わりよければすべてよし～司会の大役を終えて ＝急きょ代役を務めたコバさんのフォーラム感想です＝

7周年フォーラムの開催に向けては、施設のプロジェクト会議で約半年にわたりスタッフ間であれこれと議論しました。そうして入寮者が各役割を分担し、下り坂の天候の中で当日のフォーラム本番を迎えました。当初私は駐車場係でしたが、急きょ代役で司会を引き受けることになり、まさにぶっつけ本番で開き直って進行役を務めました。開会行事では予定になかった本県選出の国会議員の先生方が駆けつけて下さり、肩書きや名前などを間違えないように神経を使いました。夏でもないのに緊張し、汗をかきました。ファイザープロジェクト報告では少し段取りに手間取りましたが、正面の大型スクリーンの画像に合わせてヒトシさんの説明が加わり、とてもよかったと感じました。

前半のファイザーフォーラムのメインに位置づけた宮永先生の基調講演は予定より少し遅れましたが、世間の関心の高い生活保護制度や就労支援活動の在り方など中味の濃い内容で、とても印象に残りました。私たちは堅苦しい話だと、つい苦手意識が先に立って敬遠してしましますが、他ならない自分たちの問題です。仲間みんなにも考えるきっかけになればと思います。潮騒の卒寮者で社会復帰を果たし、頑張っているハルさんが、今回のフォーラムに駆け付けてくれました。ひたすら感謝です。仲間たちみんなが勇気づけられました。潮騒に入寮している仲間にとってハルさんは希望の星であり、よき手本です。貴重な社会からのメッセージにもなったことでしょう。



昼食休憩に入り、食事をとりながら「見てる方は楽しいけど、進行する方は思い通りにはいかないなあ」と、独り司会の難しさをつぶやいている自分がいました。

午後部の鹿嶋ふるさと音頭の前に、ファイザー支援の増古四郎さんの話は、支援者の置かれている大変な立場を浮き彫りにしたもので真剣に聞き入りました。感謝を忘れてはならないと改めて思った次第です。ツカさん・ヒコさんの体験談も良かったです。横浜・川崎・市原ダルクによるエイサーでは会場が大いに盛り上がりました。3ダルクに感謝します。その余韻が残ったまま、潮騒オールスターズのステージとなりました。もはや潮騒には欠かせない存在のノビさんとジョーさんが加わり、カツミさん・シモさん・ヒトシさん・タケシさん・イチさん、みんなとても感動的なステージパフォーマンスでした。

秋元病院理事長の講話もいつもながら味がありました。TBS「報道特集」映像では潮騒ジョブの仲間の様子、インタビュー、頑張る姿…が良かったです。近藤さんの講話には、いつもながら会場の方々が熱心に聞き入っていました。「ジョブトレーニングセンター」の名付け親だという話には感動しました。何かと協力を頂いている横浜・川崎・市原、君津ダルクの仲間の皆さんを紹介し、最後に栗原施設長の謝辞。手違いで花束贈呈が“絵に描いた餅”になってしまいましたが、これも潮騒流のご愛嬌。お二人で手を繋ぐ姿が絵になったと思います。終わりよければすべてよし、かな。ご協力ありがとうございました。(コバ)

秋元病院理事長の講話もいつもながら味がありました。TBS「報道特集」映像では潮騒ジョブの仲間の様子、インタビュー、頑張る姿…が良かったです。近藤さんの講話には、いつもながら会場の方々が熱心に聞き入っていました。「ジョブトレーニングセンター」の名付け親だという話には感動しました。何かと協力を頂いている横浜・川崎・市原、君津ダルクの仲間の皆さんを紹介し、最後に栗原施設長の謝辞。手違いで花束贈呈が“絵に描いた餅”になってしまいましたが、これも潮騒流のご愛嬌。お二人で手を繋ぐ姿が絵になったと思います。終わりよければすべてよし、かな。ご協力ありがとうございました。(コバ)

秋元病院理事長の講話もいつもながら味がありました。TBS「報道特集」映像では潮騒ジョブの仲間の様子、インタビュー、頑張る姿…が良かったです。近藤さんの講話には、いつもながら会場の方々が熱心に聞き入っていました。「ジョブトレーニングセンター」の名付け親だという話には感動しました。何かと協力を頂いている横浜・川崎・市原、君津ダルクの仲間の皆さんを紹介し、最後に栗原施設長の謝辞。手違いで花束贈呈が“絵に描いた餅”になってしまいましたが、これも潮騒流のご愛嬌。お二人で手を繋ぐ姿が絵になったと思います。終わりよければすべてよし、かな。ご協力ありがとうございました。(コバ)

## ＝11月誕生日の仲間たち＝



左からハンペン・ミツオ・ヒデ・サユリの皆さん。手前中央はキヨウスケさん。右の写真はマコさん。



施設の話



初めての取り組みながら、まずまずの出来だった潮騒農場におけるサツマイモの収穫風景＝10月初旬

# 横浜ダルクとのソフトボール交流を終えて

10月29日(月)は潮騒ジョブトレーニングセンターの誕生会でした。午前中は、横浜ダルクの仲間と一緒に仲間の誕生会を祝いました。午後1時30分過ぎからは、潮来市営球場で横浜ダルクとの初めてのソフトボール交流が行われました。軽い練習の後で



試合の後、全員で記念の集合写真。お疲れ様でした

互いエールを交換し合い、試合開始。お互いに点の取り合いで、逆転また逆転の熱い試合内容で2試合行いました。

その中で、ひときわ輝き活躍したのが助っ人の「ボーヤ君」でした。彼は少年野球チーム「ブルージャイアンツ」のキャッチャーで5年生ですが、この日はちょうど学校が休みということで駆け付けてくれました。仲間と交替でレフトを守りましたが、抜けたら逆転という場面ではライナーをみごとにキャッチし、潮騒チームのピンチを救ってくれました。打つほうでもバツグンの制球眼をもち、ヒットを打ったり、四球を選んだり大活躍。

他にもピッチャーのベガちゃんは2つのランニングホームラン、投げたら速い球で三振をとったり、もう一人のピッチャー、マーちゃんは低い球が走っていて打たせてとったり、とても調子よかったです。ベテラン職人(コバさん、ジュンさん)も華麗な守備と力強いバッティングでみんなを楽しませてくれました。新しい仲間(カツミさん)も大きな声で仲間をカづけ、ハツラツしたプレーで光り輝いていました。

今回、僕は応援団長に任命され、横浜のベンチにも行って応援しましたが、横浜の仲間はとてもチームワークがよかったです。仲間が打席に入るたびに大きな声で応援し、ホームインの時には、全員が祝福のハイタッチで喜び、ピンチの時には仲間を励ましたりと、一生懸命な姿にはとても感動し、自分がその中に入って一緒に応援できたことを本当にうれしく、

横浜の仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。

潮騒の仲間達も選手と応援が一つになり、自分が打ったり守ったりしていたような気持ちになり、心から喜んでいました。潮騒の選手達も一人ひとりが個性を發揮し、早く走った人、よく打った人、よく守った人、大声を出していた人、皆真剣にプレイをしたりと、いつ

もと違う一味違う仲間をみられました。

今回の横浜ダルクとのソフトボールを通して僕が一番よかったと思ったことは、お互いが勝ち負けにこだわらずにヤジもなく、お互いのためにエールを送り合い、選手と応援の仲間みんなが心一つになったということです。いつもは全員参加といっても何人かは出ない人がいるのですが、今回はほとんどの仲間が参加し(焼肉を食べた後だったので?)とてもよかったです。

応援団長の僕は横浜ベンチ、潮騒ベンチを行ったり来たりと、とても忙しいひとときでした。その場にいられたことで仲間と共に喜べたこと、楽しめたこと、そして何よりも仲間の最高の笑顔を見れたこと、楽しい笑い声をきけたことが、僕にとっても最高の一日、そして神様からの最高のプレゼントだと思っています。

これからも、仲間感謝を忘れずに「今日だけ」という言葉を心に秘めて、「クリーンで謙虚に素直な心」を忘れずにすばらしい潮騒ジョブトレーニングセンターの仲間と共に、「今日一日」という人生を全うしていきたいと思えます。それからソフトボールの審判をしてくれた「おとう」。息を切らし、汗を流し、公正明大な審判をしてくれてありがとう。最後に、いつも俺達仲間のことを愛し見守って下さっている施設長、ルミさん、ありがとうございます。これからもよろしく願います。また、遠路はるばる来てくださった横浜ダルクの仲間の皆さん、本当にありがとうございました。(アル中のタカより)

選手と応援の仲間、みんなの心が一つに

# 近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL7

やりたいという人に縛りを掛けないのがダルク流。あくまで自己責任で好きにやればいい

## ●組織化すると国から金が出やすくなる…

—組織化の問題をもう少し説明してください。

近藤 組織とか集団というのは、企業から老人会、PTA、自治体や国に至るまでみんなピラミッド型。個人の思いなど関係なく命令一下、みんな同じ方向に動く。だからルールが絶対化される。僕には人を管理しやすいからじゃないかと思える。僕は管理するのもされるのも嫌だし、ルールを守るのも苦手だから、組織や集団はひどく息苦しく感じる。

—でも、支配・管理する側には都合がいい。

近藤 支配と依存の関係だな。予算と人事権を握れば組織は鬼に金棒。権力を持つことになる。それに上意下達のピラミッド型だと、上から下に金を流すのに好都合だ。だから組織化すると国や自治体から金が出やすくなる。もちろん向こう側の基準に沿っていければの話だが…。

—税金を使うわけだから公的な助成にはいろんな縛りが掛かかりますよね。お金は大事だけれど、それと引き換えにダルクの魂は売れない？

近藤 よくあるよな。本部、支部とか枝分かれしてさ。支部会計とか作らせて、お金を管理できる仕組み。でもこれをやったらさ、ダルクの面白みというか、型に囚われないダイナミックな動きができなくなる。当事者のエンパワーメントがなくなっちゃうよ。だから今までダルクは野放しだよな。「あなたの自己責任だから好きにやってください」ってね。

—自己責任だとしてもダルクの場合は、何度でも失敗を認める発想でしょう。

近藤 ダルクは管理とは程遠い存在であるべきだ、というのが僕の考え。できるだけ自由度を認めたい。僕の場合は限りなくフリーハンドに近い。「管理しませんよ、お好きなようにどうぞ」と。そのかわり（失敗しても）ケツ拭きませんよ、というのがダルクの一番大事なとこ。でもケツ拭かなきゃならないのは、いつも僕なんだよなあ。まあ、たいていはほどほどで済んでいるけど…。

## ●組織化するとトカゲの尻尾切りになる

—最近のダルクは組織化されてフリーハンド

ではなくなった。創設者としてはどう見ますか？

近藤 あくまでダルクは組織化しないほうがいい。組織化するとトカゲの尻尾切りのようなことが始まる。あそこのダルクは自分勝手なことをやっていてけしからん、あんなのをダルクに入れたら、こっちも同じように見られて迷惑だ、ダルクの評価が下がる、ってね。ヤクザの組織でもないのに、「仁義に反する」とまで言い出すやつも出てくる。

—もともと僕がつくったダルクには既得権の発想

はない。ある程度回復したやつが「俺がやる！」って手を挙げればいいだけの話。実際には、その責任者が一通り回復プログラムをやっているなければ難しいだろ

うよ。ただ、やりたいという人に縛りを掛けないのが本来のダルク流。主宰者の持ち味や地域の特性を発揮してやればいい。その地域でやったのだから、その人が責任をとればいいわけだ。

—今は国の基準になびく傾向が強いですね。

近藤 NPO 法人とかだな。やっぱり金が出やすくなる、というところに向かっていくんだよ。そして合わない靴に合わせて、ぎゅうぎゅうになって。いざNPOになってみると、会計も書類作りも苦手な人たちばかりだから、自分の首を絞めている。それで本当にいいのか、よく考える時期なんだろうな。そういう時代にさしかかっている。（次号に続く）



**受刑者のみなさんからの手紙～「潮騒通信」を読んで～****■頑張る報道特集の映像に勇気もらった**

10月13日の「報道特集」、確かに拝見しました。以前、まだ栗原さんとお付き合いが始まる3年程前に、やはり潮騒を報じたTV番組の中で偶然にも目にした映像を思い出しながら、比べている自分がいました。あの時は入寮者の一人がガス自殺を図ろうとした場面が、とても印象に残っています。今回の放送では、潮騒という施設が皆さんで協力し合って頑張っている場所なんだなあ、ということが良く感じられ、ひしひしと伝わってきました。

まだ30代の若者がテレビに映ることを拒むこともなく、堂々と自分が依存症であることを表現している姿には感心させられました。潮騒を卒業していた元スタッフの人まで協力して、自分の働いている姿を見せていましたが、その頑張っている姿が自分の目標と重なり、「自分にも出来る」と勇気をもることができました。

(中略) 栗原さんはじめ潮騒の人たちが自分をさらけ出し、テレビでモザイクなしで映っていることに頭が下がります。ここからもう少し早く出ていて、あの場面に立ち会うことが出来たら、私も後ろの方で小さくモザイクやボカシを希望したか、それとも堂々と映ることができたか、だいぶ考えさせられました。人前で恥をかくことを恐れず、自分をさらけ出すことが回復につながるという言葉が書かれてあるのを何度も目にしてきました。私も、あと数週間もすれば潮騒の皆さんと共に回復プログラムに取り組むことができます。(北海道 O・K)

**■「今日1日だけ頑張る」気持ちで過ごしたい**

先日放送されたTBSテレビの報道特集を観ました。アルコールや薬物依存に苦しんでいる人が、いろんな所から潮騒へと集まってくる。行き場を失ってしまった人や、一人きりで何をどうしていいのかわからない人達にとって、潮騒は大切な居場所だと思います。潮騒での生活が長引いてしまう人も多いようですが、番組の中ではプログラムを終えて円満退寮した人が居酒屋で働いている姿を紹介していました。僕も潮騒でプログラムを終え、1日でも早く自立して生活できるようになりたいです。

もう2度とクスリはやらない、絶対にやってはいけない…。当たり前なことなのに、その事ばかり考えていると変なプレッシャーだったり、息苦しさを感じたりします。だから、依存症の人達がよく口にする「先のことは

分からない。今日1日だけは頑張ろう」という気持ちで僕も日々過ごしたいと思います。(北海道 K・Y)

**■置かれている現状に立ち向かいたい**

民放テレビで放送のあった「報道特集」を見ました。社会で真面目に生活する人は、自分の事で精一杯で他人の事を構ってやる余裕がなく、その現状から逃げている人ばかりだと、自分は思います。でも、栗原さんの所にいる人達は皆、自分の置かれている現状によく立ち向かっているように思えます。過去に何回も精神科病院や刑務所への出入りを繰り返しても、真面目に社会で生活していこうとする姿勢には頭が下がります。自分も今置かれている立場から逃げないで、目の前の困難に立ち向かっていこうと思いました。(北海道 A・M)

**■貧困なので生活保護を頼りにするしかない…**

潮騒通信に興味深く拝見しました。平均年齢が40代後半には驚きましたが、人間として底つきの実態を考えますと納得できます。私も社会に適應できる精神力と身体を培うことを目標に頑張る所存です。栗原さんご指摘のように、人生に無駄はないという姿勢に準ずるつもりです。自分本位で申し訳ないですが宜しく願います。手紙に書かれてあった「仲間になれる」という言葉に救われた思いです。お陰様で自分の考えに余裕が持てるようになりました。

(中略) 私は米どころ新潟出身ですので、農業経験は豊富です。実家にいる時は夜明けとともに田んぼに出かけておりました。四季折々の田園風景が好きで、それらに囲まれて生きてきました。今は農繁期です。実家の稲刈りのことが気になります。長引く景気低迷の現在、回復しても社会復帰が難しいと思いますが、私は生活保護を頼りにするしかないのでしょうか…? こんな生意気なことを言っている私ですが、貧乏です。後々、生活保護を受給するにしても、最初の入寮費はどうしたら良いのでしょうか? 月々の費用にしても生活保護だけでは足りません。金銭的に不安ですが、お言葉に甘えて先の不安は持たないようにします。どうぞ宜しく願います。はやる気持ちを抑えながら日々の試練に耐えながら、皆さんと一緒に生活してハイパーパワーを早く実感したいと願っています。(鹿児島県 K・K)

11月句会作品から～

# しおさい俳壇

～選者＝桐本石見先生

北浦に数える星の七つかな

(カツミ)

原句は少し変えましたが、これで景の見える句になり、同意の語を使わずに云いたい事を詠めます。秋は空も澄んで星が良く見えますがその中の星を七つ数えてみた、少しのロマンを秘めて艶冶な句です。

秋風に時を知らずの蛙かな

(アーチャ)

蛙は秋風の吹く頃になると冬眠をするわけですが、昼の暖かい頃はまだ出て来ているを見かけます、その蛙に呼びかけた句で俳諧の哀れも込めた句で微笑ましい。蛇など穴感いとも言います。

仰ぎ見るあの娘思ひて秋の空

(ユウイチ)

この句も同意語を変えて秋の空を眺める景にしましたが、これで湖か山かの秋の空を仰ぎながら好きな娘を心を込めて思う句になります。優しい表現でも自分の身近な句は実感のある句となります。

秋深し菊花人形彩りて

(フミ)

この句も出来れば「秋深し」を「笠間宮菊花人形色冴えて」などにすれば景も見えるかと思えます。十月も半ばを過ぎると菊花展があちこちで始まりますが、菊人形は近くでは笠間稲荷が有名です。今年には平家物語とか。

出所人待ちて甲府の天高し

(ユタカ)

「出所人」は刑務所などから刑を終えて出る人ですが、その人を迎えに行き甲府の何所かで待つ、甲府は盆地で周囲の峰々も高いが今日は秋晴れで、その峰も青く見える、迎える人も出る人も心が晴々する、門出を祝う様な句で目出度いが、今後の人生も秋晴を祈りたい句です。

肌寒さ覚えし頃や今朝の冬

(ジユン)

今朝の冬は立冬の朝のことで毎年十一月八日頃、その頃は秋も深まり凧も吹き晴れても朝は肌寒さを覚える。まさに実感の句です。

焼き秋刀魚塩の加減も好かりけり

(オノ)

原句を少し変えましたが、これで今食べている実感の句になり、塩加減も自分に合った焼き秋刀魚の美味さが伝わる思いがします。

草の昨日はすでに昔なり

(マキ)

色草は秋の草花のことで春の花よりもどこかに淋しい思いがあります。その秋の七草を含めた花を眺めていると花の色の移りと共に四季や時の経つを思う、昨日もまた昔の様に感じる、少しの艶冶を秘めてしみじみとした句です。また、「病む躰恐る恐ると時雨る朝」も実感の句。

コスモスや色々咲いて鮮やかに

(コバ)

コスモスは秋桜とも云いますが、私はコスモスの名がこの花には似合う気がします。赤、桃、白、薄紫、青色など多彩に咲く。繊細、薄情、ながら何処にでも咲く強さもある、簡潔ながら実感の句です。

夕風や掃除をしてもまた落葉

(ラッキー)

原句を少し変えましたが、俳句は出来るだけ季語を一つにして実感の句が良い。朝庭を掃いたのにまた夕風に落葉で晩秋を思う句になり、掃除をする苦労も面白い思いがします。

山道や栗が沢山落ちてをり

(コジ)

原句の「木の下」では当り前なので少し変えましたが、今でも鹿島の山道などに行くとアケビや栗があります、故郷の山を偲ぶ句です。

秋雨や体調管理難しい

(ヒトシ)

原句の「秋空」を変えましたが、秋雨だと梅雨に似てじめじめの感じも、また寒さも思いますが、歳を重ねたり病身だと余計に体調管理は難しい。実直な句ながら実感の思いです。

太ももの赤く色づく夜寒かな

(サエキ)

秋も深まり一人居ると余計に寒さを感じる。着替えてもする時など太ももの赤の滲むを見て、また寒さを覚える、女性なら艶冶だが、男では尚更に哀れを思う句でもあります。

我が娘遠く暮らすや秋の空

(エディー)

原句には季語がなかったので「秋の空」を入れましたが、これで淡い雲の秋の空の彼方を眺めながら娘を思うしみじみした句になります。女性はぎゅくが多いし、主人の転勤などで海外へも行く。子を思う一句です。

潮騒の今日の芋掘り楽しかり

(アベ)

芋掘りは今では幼稚園や小学校でも体験学習の一つとして行われますが、農家は苦勞も多いが行樂の行事なら大人も童心に還れて楽しい。晴れた日に子供等の歓声を彷彿する句です。

秋刀魚食う大根下ろし持って行く

(ウタロウ)

焼き秋刀魚に大根下ろしは付き物ですが、何人かで秋刀魚を焼き、さあ食べようと自分で大根下ろしを持って集まる、これも実感の句です。

逢いたくて只逢いたくて天の川

(トミー)

この句も季語が無かったので「天の川」としてみました。「藪柑子」か「女郎花」などでも良い。私も青春の頃が懐かしい句。

また、「柚子の実や母の許しをいつの日か」の句も切実です。

秋晴や遠き船みて鹿島灘

(ユフ)

この句も季語が無いので「秋晴」として、鹿島灘沖の船を眺めている景にしました。秋になると夏の海水浴の賑わいもなく、只晴れ渡る浜に一人で沖を見る男の淋しさも宿して、しみじみした句です。

薩摩芋焼けてほくほく美味しいよ

(ちくな)

原句は少しかえましたがこれで薩摩芋の焼けて美味しさも熱さもわかる景になります。昔はこの神栖でも焼き諸屋さん came ましたが、薩摩芋は家などで焼いた方が焼けるを待つ時も合せて楽しいものです。

照り紅葉仲間とソフト大勝利

(タカ)

「落葉ちり」を照り紅葉に変えましたが、これでソフトの大勝利も明るく祝う景になります。公園の銀杏紅葉などに日が照る中でのソフト大会、歓声も聞える様で晴れ晴れとした句になります。

誕生日ももうすぐ告げるオリオン座

(ヨシハル)

俳句ではオリオン座は冬の季語で三星とも云い二月上旬頃の夕暮に見える。そのオリオンの星の頃に誕生日を告げるのは恋人に告げるのか、ロマンのある句で昔が懐かしい。

秋深し夕空晴れて心さがし

(セイジ)

「さがし」は険しで、心があぐない、の意でもあります。秋も深く夕方の寒さも覚える頃は心もまた淋しく哀しい思いにもなる。俳句の季語にも「秋思」があり古来より今も人は同じ思いなのです、しみじみとした句です。

日一日寒さの募る秋の暮

(ヒロ)

原句は少し変えました。俳句は字数が少ないので、出きるだけ同じ意味の言葉を使わない方が良いです。時には繰り返す語で成功しますが、日の暮に風も冷たくなり日一日と秋の深まる思いの句になります。

時が過ぎ友の集まる秋燈し

(トム)

「居場所知る」を秋燈しにして見ましたが、これで夕食も終えどこの部屋かに友人が集い今日の話が将来の事を語る景が彷彿します。秋の燈もまた暖かさを感じるしみじみとした句になります。

母の味重箱に詰め運動会

(おとつ)

最近ではコンビニの弁当も多いがやはり運動会や遠足には手作りの母の弁当が何より美味しい。ことに低学年の子供達にはそれが一生の思い出にもなる。「母の味重箱に詰め」が心に沁みる一句です。

# Information

## 行事予定 (11月中旬～12月初旬)

- 11月17日 秋元病院メッセージ
- 19日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 24日 びわこダルクフォーラム
- 26日 潮騒11月誕生会
- 12月6日 ファイザープログラム助成対象団体の結果発表  
(潮騒JTCは2年目に向け継続助成を申請)
- 9日 秋元病院メッセージ (15日も)



## 潮騒7周年フォーラムで献金を頂いた方々

- ▼医療法人梨香会秋元病院理事長 秋元 豊様
- ▼マスコ測量 増古 富士男様 ▼潮騒家族会様
- ▼横浜ダルクケアセンター様 ▼鈴木 浩二郎様
- ▼リカバリーファーム君津ハウス様
- ▼ワーキングストレス研究所 佐藤 浩様
- ▼お食事処 キラク様 ▼村上 ふみゑ様
- ▼山田 武朗様 ▼小林 久祐様 ▼内堀 高良様
- ▼遠藤 裕二様 ▼高田 武義様 ▼石井照明様
- ▼小橋 ひとみ様 ▼坂口 政治様 ▼高橋 ふく子様



## 献金・献品を頂いた方々 (11月中旬まで)

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| ▼献金を戴いた方  | ▼献品を戴いた方          |
| 小岩井商事(株)様 | 杉本 勇蔵様            |
| 坂西 ミヤ 様   | 岩田 けい子様           |
|           | 高田 武義様            |
|           | 石井照明様             |
|           | ワーキングストレス研究所 佐藤浩様 |

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

## 編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム (中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39

E-MAIL [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

【お願いします!】潮騒JTCでは使わなくなった中古のパソコン、中古の車いす、中古自転車などの献品を求めています。回復活動や日々の生活に必要なので、ご協力ください。

## 編集後記

潮騒通信は、原則として月半ばの発行を目的に編集制作をしています。11月号は公開フォーラムについての記事を入れたために、編集作業が下旬にずれ込んでしまいました。10月下旬の鹿嶋まつりや、活動拠点としている鹿嶋市まちづくり市民センターの「て～ら祭」(11月上旬)も載せたかったのですが、紙面の関係で見送らざるを得ませんでした。タイミングが遅れても12月号には何とか入れたいと考えています。それにしてもこの国の政治状況の行き詰まりから、急きょ師走の総選挙となりました。巷には白けた選挙の喧騒が広がっていますが、民主主義の成熟社会において混迷する「決められない政治」を変えるのは選挙です。大切な権利を無駄にたくないものです。ダルクは政治的にはいつもニュートラルですが、入寮者の皆さんは自由意思でこの国のかじ取りを託せるような「選良」を選びましょう。併せて焦点の「生活保護見直し」の動向にも注視してください。入寮者の存在にかかわる重大な問題ですから…。(市)

発行所 郵便番号一五七〇〇七三  
東京都世田谷区砧六―二六―二一  
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 (会費を含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。